

令和 8 年 第 7 回 小 林 市 議 会 定 例 会 （ 9 月 議 会 ）

一 般 質 問 通 告 書

質問者一覧

質問日	開始時間 (予定)	発言順番	議員名	ページ
9 月 2 日 (水)	午前	①	原 勝 信	P 2
		②	吉 藤 洋 子	P 5
	午後	③	有 木 将 吾	P 8
		④	大 迫 み ど り	P 9
9 月 3 日 (木)	午前	⑤	能 勢 誠	P 11
		⑥	橋 本 律 子	P 15
	午後	⑦	貴 嶋 憲 太 郎	P 17
		⑧	野 田 利 典	P 20
9 月 4 日 (金)	午前	⑨	竹 内 龍 一 郎	P 22
		⑩	小 川 真	P 25

9月2日（水）

発言順番 1

原 勝信

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 7月28日に発生した熊本地震における本市の対応について	2026年7月28日16時27分に熊本県で発生した地震は、マグニチュード7.1、震源の深さは16kmで熊本県の宇城市と氷川町で最大震度7を観測した。 国内で震度7を観測する地震は2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震以来2年6か月ぶりで、また、熊本県内では平成28年熊本地震以来、10年3か月ぶりに震度7を観測し、熊本県内で3回目の震度7を観測する地震となった。 本市も発生直後から救援物資や人的支援の対応を行っているが、災害の経験や教訓を風化させず次世代へつなげることが重要である。	市長 教育長
(1) 防災対策について	①避難所となる学校体育施設の空調設備並びに教室開放の考えについて ②諸事情により避難所への避難を控える車中泊者への対応について ③燃料輸送や燃料等の管理並びに住民拠点SS※について ④ストレス解消など避難所でのプライベートな空間確保について ⑤簡易テントや段ボールベットの備蓄状況について ※住民拠点SS（サービスステーション）とは、自家発電設備を備え、災害による停電時でも地域住民に継続して給油を行えるガソリンスタンドのこと。	
質問事項 2 健幸のまちづくりについて	東京大学大学院の研究チームが全国951市区町村の歩数データを分析し1日の平均歩数を分析した結果、小林市が4,026歩と全国で最も少ない結果との報道があった。車社会の地方ならではの課題であるが、今回の結果は個人の意識だけでなく、公共交通機関の利便性や生活関連施設の種数など地域の歩きやすい環境も重要と考える。	市長 教育長

9月2日(水)

発言順番 1

原 勝信

議員

質問事項	質問要旨	質問の相手
(1) 健康づくりの取組について	本市では令和2年度から歩いた歩数に応じて毎日ポイントがたまる健康づくりプログラム「こばやし健幸ポイント」を開始し、参加者は年々増加しており、昨年度は2,029人が参加。宮崎県内の主な自治体では、宮崎市が5,036歩、都城市が4,838歩、延岡市が5,178歩などとなっているが、本市の「こばやし健幸ポイント」参加者の1日の平均歩数はおよそ7,000歩と、全国トップクラスに迫る高い数値である。車社会であっても取組次第では歩数を伸ばすことは可能である。車が生活必需品である地方ならではの課題が浮き彫りとなった今回の結果であるが、今後の健康づくりへの取組について、また、医療費の抑制効果について伺う。	
質問事項3 吉都線利用促進について	J R 吉都線小林駅は小林市の観光と交通・地域交流の拠点である。K I T T O 小林には小林バスセンターと小林まちづくり株式会社観光案内所が入り、J R 小林駅と併設されることで鉄道と路線バスの接続、観光サービスの利便性が図られている。	市長 教育長
(1) 駅駐輪場の利用について	吉都線利用の8割が高校生で主に通学利用されている現状であるが、隣接する駐輪場の近年の利用状況並びに長期間放置されている自転車の対応について伺う。	
(2) 国スポ・障スポ開催時における鉄道輸送の対応について	第81回国民スポーツ大会に参加する選手・監督、役員、視察員、報道員及びその他の関係者並びに一般観覧者の輸送交通については、交通事業者やその他関係機関と緊密に連携し、安全かつ効率的で確実な輸送を行うとともに、公共交通機関の利用を促進するなど、交通混雑の緩和と環境に配慮した輸送・交通体制が重要と考える。開閉会式、競技会場、練習会場又は宿泊施設への鉄道輸送について伺う。	

9月2日（水）

発言順番 1

原 勝信

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
（３）駅舎活用事業並びに列車活用事業について	小林市の市民団体「吉都線に観光列車を呼ぼう！小林実行委員会」は、乗車しながら地元の酒と食を味わえるイベント「ビール列車」を企画。市内外から約40人が参加し、約2時間半の沿線の列車旅を楽しんでいる。今後の観光列車事業の企画や事業展開について伺う。 また駅舎と連動した企画イベントの開催について、さらに令和9年は小林駅115周年、令和10年は吉都線全線開業115周年、さらに令和11年は西小林駅開業100周年を迎えることから、さらなる機運醸成に向けた取組について伺う。	
質問事項4 観光戦略について	宿泊を軸とした地域内の事業者間連携による宿泊業の付加価値向上及び地域全体の滞在価値向上の実現に向け、地域における課題発見、当該課題の解決のための様々な施策・商品のコンセプトづくりについて伺う。	市長 教育長
（１）宿泊施設の対応について	本市の宿泊施設の現状について伺う。 また、ドームテントやグランピングなど観光地や宿泊施設等と連動したプランの造成について伺う。	
質問事項5 公共施設について	県外では企業をPRするような名前がついた公衆トイレを見かける。自治体がトイレの命名権を導入しており、契約したトイレの専門業者が技術を生かして、衛生的な設備に改修したり、定期点検をしたり、敬遠しがちな公衆トイレの浄化につながっている。	市長 教育長
（１）公衆トイレの命名権導入について	公園や観光施設をはじめ、公共施設（トイレ）の老朽化は進んでいる。洋式化・自動水洗化など、衛生的な設備の改修は喫緊の課題と考える。『ネーミングライツ』の導入等の見解を伺う。	

9月2日（水）

発言順番 2

吉藤 洋子

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 人口減少対策について	本市の人口は、令和8年2月に4万人を下回り、7月1日現在 39,451 人と前年同月比で 954 人の減少となっている。人口減少が進む中で様々な問題が発生していることから、人口減少対策について市長の見解を伺う。	市長
（１）消防団員のなり手不足について	7月3日に小林市夏季特別点検消防操法大会が開催された。現在の団員数と各部の抱える問題について伺う。	
（２）住み続けたいまち、帰ってきたいまちについて	子供を小林市に居させたい、帰って来させたいとの市民の声があるが、小林では働く場所がないとの声も聞く。今後どのような施策を展開されていくのか伺う。	
（３）北海道東川町の事例について	東川町は豊かな自然をモチーフにした移住施策、子育て支援、文化戦略、景観づくり、国際交流の取組を組み合わせた施策により人口が増加傾向にある。 「生まれてくれてありがとう」という思いを込めて町で生まれた子供たちに「君の居場所」の象徴として手作りの椅子を贈るプロジェクトや、自然と文化と人が出会う写真映りのよいまちづくりを進めている。 本市も湧水や霧島連山、食文化など一貫したメッセージを発信していく必要があると感じるが見解を伺う。	
（４）多文化共生・海外交流について	東川町は国内初の公立日本語学校を小学校校舎の跡地を活用して開校している。奨学金制度が充実しており、他の民間日本語学校に比べて授業料が安く、豊かな自然のもとで学習に集中できる環境である。また、町ではJETプログラムを活用し、様々な国からの国際交流員やスポーツ国際交流員を役場で採用・配置し、海外との連携事業や町民との交流イベントで活躍している。 本市の海外留学生受入状況や、市職員としての	

9月2日（水）

発言順番 2

吉藤 洋子

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	採用について伺う。また、市内イベント等での連携や参加状況について伺う。	
質問事項2 南海トラフ地震や頻発する大規模災害への備えについて	南海トラフ地震は、今後高い確率での発生が懸念されており、広範囲に甚大な被害をもたらすことが想定される。本市においても、災害発生時に行政機能を維持し、市民の生命を守る体制が十分に整っているか改めて点検する必要がある。こうした観点から大規模災害への備えについて伺う。	市長
（１）備蓄品の確保について	簡易トイレ、発電機、衛生備品などをどの程度備蓄しているのか。また、備蓄品は想定避難者数に対して十分なのか今後の方針について伺う。	
（２）井戸水の利活用について	断水が長期化すると市民生活や避難所運営に大きな影響を及ぼすことが想定される。その際、地域にある井戸水は飲料水に限らず、トイレなどの生活用水として極めて重要な役割を担うと考える。 1点目に、地域防災計画や災害対応マニュアルにおいて、井戸水はどのように位置づけられているのか伺う。 2点目に、災害時に活用可能な災害協力井戸について、どの程度把握し、登録制度など活用しているか伺う。 3点目に、井戸水の水質検査について、平時から水質検査を実施しているのか。検査項目、頻度、費用負担の在り方について伺う。また、災害発生後に井戸水を飲料利用する際の検査体制は整っているか伺う。 4点目に、井戸所有者に対して、日常的にどのような点検方法や管理基準を周知しているのか伺う。	
（３）各避難所のエアコン設置、トイレ洋式化の状況について	酷暑の続く中での避難生活は大変な負担となる。各避難所のエアコン設置状況、停電時の稼働体制、トイレ洋式化の状況と今後の方針を伺う。	

9月2日（水）

発言順番 2

吉藤 洋子

議員

質問事項	質問要旨	質問の相手
（４）防災倉庫の管理状況について	各地区自主防災組織での日頃の点検・管理状況について伺う。	
（５）防災ラジオの活用状況について	令和２年から防災ラジオを各世帯に１台ずつ、学校、医療機関、介護施設などにも配布しているが、その後の活用状況、現在の配布状況について伺う。	
質問事項３ 渇水の影響と対応について	豪雨災害が頻発する中で、本市では渇水により浜ノ瀬ダムの取水制限がなされ、水田部では農業用水を利用できない状況があったことから、その影響と対応について伺う。	市長
（１）浜ノ瀬ダムの取水制限について	浜ノ瀬ダムの状況について次の点について把握されているか伺う。 １点目に、本市の今年の降水量は例年と比べてどの程度少ないのか伺う。 ２点目に、ダムの貯水率は現在どの程度か。また、今後の見通しについて伺う。 ３点目に、取水制限の内容と基準、対象地域、対象農地はどのようなになっているか伺う。	
（２）取水制限による影響と今後の対応について	１点目に、影響を受けた水田の面積や被害状況を把握されているか伺う。 ２点目に、水不足による作物被害、特に水稻への影響をどのように見込んでいるか伺う。 ３点目に、水不足により収量減や品質低下が生じた場合の農家への補償や支援策はあるのか伺う。	
（３）気候変動への備えについて	豪雨と渇水が頻発する時代に対応した農業政策が必要ではないか。また、高温・渇水に強い品種や栽培方法への転換を支援する考えはあるか伺う。	
（４）今後の市民生活への影響について	今後、渇水が続く場合、市民生活への影響も懸念されるが、水道水の安定供給、節水要請、要配慮者支援、医療・福祉施設への安定供給を維持するために、市としてどのような対策を講じるのか伺う。	

9月2日（水）

発言順番 3

有木 将吾

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 財政運営について	「骨太の方針 2026」の閣議決定を受けて本市財政運営に関する考え方を市長に伺う。	市長
質問事項 2 地域の経済対策について	農林業振興、畜産振興、商工振興の各施策の見解を伺う。	市長
（１）農林業振興について	林地残材等を活用した木質バイオマスの取組について、森林共同施業団地の考えについて及びみどりの食料システム戦略の見解について伺う。	
（２）畜産振興について	子牛の死亡要因の実態とその対策について伺う。	
（３）商工振興について	地域電子通貨の考え方及び里山リゾート須木（仮称）の方向性について伺う。	
質問事項 3 本市の入札制度について	一般競争入札が 2,000 万円以上となってからの落札率の検証及び今後の見通しと対策について伺う。	市長

9月2日（水）

発言順番 4

大迫 みどり

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 防災対策について	7月28日に熊本県熊本地方を最大震度7の地震が襲った。猛暑のなか冷房もない過酷な避難所環境の実態や、水も食料も足りないなど深刻な状況が、日本共産党の現地調査であきらかになった。災害関連死を出さないためにも、被災者が安心して避難生活を送れる環境の整備について質問する。	市長 教育長
（１）避難所のエアコン設置状況について	危険な暑さの中での避難は熱中症のリスクがある。エアコンのない避難所を運営する際の対応とエアコン設置状況を伺う。	
（２）避難所トイレの洋式化について	避難所では足の悪い方にとって、和式トイレは無いに等しい。トイレを我慢することで体調を崩す心配もある。災害はいつ起こるか分からない。早急な対策が求められると思うが、市の方策を伺う。	
質問事項 2 日本共産党小林市議団が取り組んでいる「小林市民アンケート」から	日本共産党小林市議団は、市民の皆さんの要求をつかみ、市政に生かしていくために「市民アンケート」に取り組んでいる。若者から高齢者まで多くの回答を寄せていただいている。市政に望むことで具体的なこととして記述された意見について質問する。	市長 教育長
（１）子育て環境について	小林市には、子どもたちを遊ばせる公園や施設が少ない。特に三松地区には児童館もなく小さな公園が1つしかないとの声があった。放課後や休日の子どもたちの居場所について伺う。 ①三松地区への公園の整備と拡充について ②三松地区への児童館・放課後子ども教室の設置について ③市内の放課後児童クラブの現状について	
（２）ごみ問題について	年齢に関係なく特に記述が多いのが、ごみ分別についてである。環境に配慮したごみ分別とごみの減量を進めるための方策と市民の理解を得るための取組について質す。	

9月2日（水）

発言順番 4

大迫 みどり

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	①ごみ分別虎の巻について ②ごみ分別の理解について ③プラごみの出し方について ④ふれあい収集の緩和について ⑤ごみの減量について ⑥学校教育でのごみ問題と分別の実践について	

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 小林市健幸のまちづくり拠点施設（ひいらぎアリーナ）の防災機能や安全性、整備事業の未払い問題と内部統制について	供用開始後の防災機能の確認に加え、未払い問題における組織の責任と風土改善、他自治体の被災事例を踏まえた構造的安全性の再確認、及びひいらぎアリーナを舞台にした市民参加型の防災訓練の実施方針について伺う。 【用語解説】 ※内部統制：組織内で業務を適正に行いミスや不正を防ぐチェック体制	市長
（１）防災拠点・指定避難所としての機能と運用体制について	避難所設置検討会での議論を踏まえ、災害発生時におけるひいらぎアリーナの避難所機能（設備、備蓄、資機材の運用体制等）が本当に市民を守るものとなっているか、現在の整備状況を確認する。	
（２）施設の安全性、第三者検証及び市民参加型防災訓練の実施について	同一の施工業者（前田建設工業）が手がけた八代市新庁舎で7月28日に発生した熊本地震により免震装置が損傷した事実を踏まえ、市民の安全と安心を担保するための市長の認識を確認する。万が一の直下型地震に備えた耐震診断等の第三者検証を求めるとともに、新設されたひいらぎアリーナを実際に活用し、大地震を想定した実践的な市民参加型総合防災訓練を実施する方針について伺う。	
（３）デザインビルド委託契約に係る未払い問題の原因究明と再発防止策について	未払い問題に関して議会から申し入れた「原因究明・再発防止策の確立・組織風土改善」への対応状況を伺う。職員への聞き取り等の調査状況を明らかにするとともに、個人のミスを放置せず組織全体でカバーし再発を防ぐ体制づくりへ向け、どのような具体的取組を行うのか伺う。	
質問事項 2 令和8年熊本地震発生に際し本市の対応、対策について	直近の震災支援の実績と現地での課題検証を踏まえ、今後の防災計画の刷新、避難所運営の改善、給水車の整備・配備状況、災害ボランティアの派遣・受入体制の強化及び物資を確実につなぐ	市長 教育長

9月3日（木）

発言順番 5

能勢 誠

議員

質問事項	質問要旨	質問の相手
（１）被災地支援における対応状況と検証・給水車整備及びラストワンマイル対策について	配送・配食支援策の構築について伺う。 職員派遣や物資支援の対応状況と現場での課題をどう検証しているか確認する。また、断水時に不可欠となる給水車の保有・整備状況及び配備計画を問うとともに、広域拠点から各避難所や孤立集落へ物資を確実に届けるラストワンマイルの配送体制について、地元運送業者等との連携を含めた具体的な確保策を伺う。 【用語解説】 ※ラストワンマイル：広域拠点から個々の避難者・孤立集落、あるいは自宅までの最終区間をつなぐ配送・移動の仕組み	
（２）災害ボランティアの適切な派遣・連携体制及び避難所環境整備（トイレ対策含む）について	被災地支援の核として、本市から他自治体へボランティアを適切かつ適時に派遣するための「中間支援」の役割について見解を伺う。特に「宮崎県災害中間支援ネットワーク事務局」との平時からの連携・情報共有がどうなっているか確認する。あわせて、被災地での教訓を本市の避難所運営等へどう反映させるか。また、衛生環境の切実な課題である「トイレ確保（トイレカー導入や民間業者との協定活用）」の体制構築の方針を問う。	
（３）本市の学校給食センターを活用した配食機能と「温かい食事」のラストワンマイル配送体制について	停電時にも稼働する自立型インフラや大規模な炊き出し機能を備えるえびの市防災食育センターの事例を参考にしつつ、本市が保有する学校給食センターを災害時の後方支援拠点（セントラルキッチン）として活用する可能性について伺う。あわせて、民間のネットワークや配送事業者と連携し、避難所や在宅避難者へ「温かい食事」を確実に届けるラストワンマイル配送体制の構築に向けた市長の見解を確認する。	
質問事項 3 地域公共交通政策について	令和 8 年度に計上された計画策定業務委託（748 万円）を踏まえ、全国的な法的義務化に伴	市長

9月3日（木）

発言順番 5

能勢 誠

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	う次期計画の策定方針、形式的な運営に陥らない協議会の在り方及び職員の専門性向上に向けた取組について伺う。	
（１）計画策定業務を受注した業者と、市の担当職員の専門性向上について	次期計画受注業者の専門性や実績の評価に加え、政策の実効性を高めるため、市の担当職員が「地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成講座」等の専門研修を受講する機会を設けているか伺う。専門研修を受講している場合、そこで得た知見を今後の計画づくりにどう生かすか確認する。	
（２）形式的運営から脱却した協議会運営と外部知見の活用について	全国的な課題として専門研修等でも指摘される「形式的な会議からの脱却」を念頭に、本市の過去の議事録等も踏まえ、さらなる運営改善が必要と考える。あらかじめ決まった筋書き通りに進めるのではなく、市民や関係者の声が真に反映された実質的な議論を担保するための具体的な方策を伺う。あわせて、外部の専門家（養成講座の講師陣等）からの助言や連携を取り入れる考えはないか伺う。	
質問事項 4 『檻の中のライオン』に学ぶ、本質的な憲法教育の推進について	「憲法は国民の権利を守るもの」という、立憲主義の本質を子どもたちが主権者として学ぶため、学校現場での指導実態と外部講師の活用を含めた主権者教育の在り方を伺う。 【用語解説】 ※立憲主義：憲法で国家権力を縛り、国民の人権と自由を守るという考え方 ※檻の中のライオン：権力を「ライオン」、憲法を「檻」に例え、立憲主義を分かりやすく解説した書籍・教材・手法	教育長
（１）学校現場における立憲主義の指導の実態について	中学校での公民的分野の学習で、「憲法は誰が守るものか（国家権力を縛るルールであること）」という立憲主義の本質がどのように指導されて	

9月3日（木）

発言順番 5

能勢 誠

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	いるか、現場での指導実態を確認する。	
（２） 比喻を用いた教材活用 と主権者教育の推進について	難解な憲法概念を学ぶ一助として、分かりやすい比喻（『檻の中のライオン』等のパペットや教材）を活用し、子どもたちが「自分たちの手で社会やルールをつくる（国民主権）」という実感を持てる主権者教育を進める考えはないか伺う。	
（３） 専門講師を招いた学習 会・講演会の実施について	主権者意識を育む機会として、著者である椋大樹弁護士らを招いた教職員向けの研修や、小・中学校での出前授業、さらには市民や保護者を対象にした学習会を企画・実施する考えはないか伺う。	

9月3日（木）

発言順番 6

橋本 律子

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 学校統廃合問題について	本年6月25日に発表された「今後の学校の在り方に関する方針」について、この7、8月に各中学校での説明会が行われた。そこで出された様々な質問や意見について、現段階でどう捉え、今後どう対処していく考えかを伺う。	市長 教育長
（1）「今後の学校の在り方に関する方針」の方向性について	学校区ごとに、多様な受け止めがなされていることをどう捉えているか。	
（2）再編後の小林市立中学校のスタートを、「5年後」とした理由について	生徒数の減少の推移を見ると、5年後までは維持している学校がある。学校と地域の実情を考慮して、スタートを遅らせるという考えはないか。	
（3）今後の協議について	各中学校区での説明会を終えて、今後児童・生徒や保護者、地域住民、教職員との幅広い協議をどう進めていく見通しか。	
（4）「今の学びが未来を創る」という小林教育の理念に立って	説明会の中では、現在35人超過学級のある学校や、老朽化した施設設備に困っているという学校から改善を求める声も出されていた。これらの要求にどのように応えていくのか。	
質問事項 2 日本共産党小林市議団が取り組んでいる「小林市民アンケート」から	日本共産党小林市議団では、この4月から「小林市民アンケート」に取り組んでいる。そこに寄せられた多くの市民の生の声を伝え、それらの受け止めと具体的な対応を伺う。	市長
（1）「国民健康保険税・介護保険料の引下げ」を求める声について	アンケートで暮らし向きを問うと「生活が苦しい」が65%を占める実態がある。その理由として、「物価が高騰した」に続き「税金・公共料金の負担増」「介護・医療費の負担増」が挙げられていた。これは「小林市に望むこと」の1位「国民健康保険税・介護保険料の引下げ（56%）」とも関連している。この声をどうとらえるか。また、どう対処していくのか。	
（2）「小林市に望むこと」について	「国民健康保険税・介護保険料の引下げ」のほか、「保育料への支援」「家賃補助」「ごみ・環境問題」の課題が出されている。これらをどう認識	

9月3日（木）

発言順番 6

橋本 律子

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	しているか、また対応する予定はあるか。	
質問事項 3 補聴器購入助成制度の新設について	補聴器購入への助成を望む声は「市民アンケート」にも多数寄せられている。市長は補聴器助成を求める会との懇談で「時間をください」と述べ、また、6月議会でも「必要性は十分認識している」「さらに踏み込んだ調査研究をして、総合的に検討して最終的な判断をする」と答弁された。その後、検討はどこまで進んでいるのかを伺う。	市長
（１）補聴器購入助成制度の全国・県内の現状について	県内の補聴器助成自治体は26分の11、全国では6月1日時点で675自治体であったが、7月1日現在723自治体にまで増えている。都城市も日南市も今年度から実施しており「小林はまだか」の声が上がっていることをどう考えるか。	
（２）専門家を招いての学習会を	耳鼻科医や大学教授など専門家の方々が、「小林市に出向いて話をしたい」との申し入れを再三されており、私も一般質問の場で学習会の要請をしてきた。今後、実施する予定はあるのか。	

9月3日（木）

発言順番 7

貴嶋 憲太郎

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 平和教育について	小林市には、子どもたちが戦争で犠牲になったり戦争によって小林へ疎開してきた歴史がある。さらに終戦後の引揚げや戦後開拓など戦争と平和について考える地域の貴重な歴史が残されている。これらの歴史を後世に伝え、小林市独自の平和教育に生かすことができないか伺う。	市長 教育長
（１）平和教育の取組について	本市の小・中学校では現在、戦争の歴史や平和の尊さについてどのような平和教育を行っているのか伺う。	
（２）西小林地区に残る戦争の記憶の継承について	戦時中、西小林地区で児童らが機銃掃射を受けた出来事について、市内の児童・生徒が学ぶ機会は何の程度設けられているのか伺う。	
（３）宮古島市との学童疎開の歴史を生かした平和教育について	戦時中、宮古島から子どもたちが小林へ学童疎開してきた歴史があり、昨年 11 月には移動平和展も開催された。教育委員会として、この移動平和展の教育的意義と成果をどのように捉えているのか伺う。	
（４）宮古島市をはじめとする関係地域との平和学習と交流について	今回、教育長が宮古島を訪問され、平和学習について意見交換されているが、この訪問を機に今後どのような具体的取組につなげていくのか、その考えを伺う。	
（５）環野地区の戦後開拓とパラオとの歴史的つながりについて	終戦後、パラオから引き揚げてきた方々が環野地区に入植し、地域を開拓してきた歴史があるが、教育委員会は、この環野地区とパラオとの歴史的なつながりをどのように認識しているのか伺う。	
（６）地域に残る戦争・疎開・引揚げ・開拓の歴史を生かした平和教育について	西小林地区の戦争の記憶、宮古島からの学童疎開、環野地区の引揚げ・戦後開拓など、地域に残る戦争資料や証言等をどのように保存・活用し、今後の平和教育につなげていく考えか伺う。	
質問事項 2 伝統文化の継承と取組について	本市に受け継がれてきた伝統文化について、その現状や継承上の課題を把握し、次世代への継承、記録・保存及び活用を体系的に進める仕組み	市長 教育長

9月3日(木)

発言順番 7

貴嶋 憲太郎

議員

質問事項	質問要旨	質問の相手
	を構築できないか伺う。	
(1) 伝統文化・郷土芸能の現状について	現在どのような伝統文化があり、それぞれの活動状況や担い手の状況をどの程度把握しているのか伺う。	
(2) 伝統文化の担い手不足と後継者育成について	人口減少や高齢化が進む中、担い手不足によって今後途絶える可能性があるものまで把握しているか伺う。	
(3) 学校・地域と連携した子どもたちへの伝統文化の継承について	学校の総合的な学習の時間や地域学習などを活用して、子どもたちが地域の伝統文化に触れたり、実際に体験したりする機会を増やすことはできないか伺う。	
(4) 伝統文化の記録・保存について	継承が困難になりつつある伝統文化について、演じ方、音楽、衣装、道具、地域の方々の証言などを、映像や写真、音声等により体系的に記録・保存する考えはないか伺う。	
(5) 伝統文化の記録の活用と情報発信について	記録・保存した郷土芸能や伝統行事の由来、映像、写真、証言等をデジタル化し、学校教育や地域学習、情報発信にも活用できる「地域文化デジタルアーカイブ」として整備する考えはないか伺う。	
質問事項3 ひいらぎアリーナの管理運営について	5月から供用開始されたひいらぎアリーナはスポーツだけではなく、健康づくりや交流など本市の健幸のまちづくりを進める重要な拠点施設である。 供用開始後、施設や備品については今後長期間にわたり使用していくことを考えれば、供用開始当初から適正な管理を徹底することが重要であるとする。施設内の備品一つ一つについても市民の大切な財産であるという認識を管理する側と利用する側の双方が共有する必要がある。そこで、供用開始後の利用状況と施設及び備品の管理体制について伺う。	市長 教育長

9月3日（木）

発言順番 7

貴嶋 憲太郎

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
（１）供用開始後の施設の利用状況について	5月の供用開始以降、ひいらぎアリーナの利用者数、稼働状況について伺う。	
（２）施設及び備品の管理体制について	施設内の体育器具などの備品について、日常的には誰がどのような方法で管理しているのか。また、使用前・使用後の状態確認はどのように行っているのか伺う。	
（３）備品の適正な取扱いと破損・紛失への対応について	供用開始から現在までに施設や備品について破損、不具合、紛失などが発生していないか伺う。発生している場合にはどのように把握し対応しているのか伺う。	
（４）利用者への施設や備品の使用ルールの周知について	備品を大切に使用することは利用者にも求められる。施設や備品の使用方法やルールについて利用者への周知をどのように行っているのか。また、職員や施設管理に携わる方への管理方法の周知や研修はどのように行っているのか伺う。	
（５）施設及び備品を長期にわたり適正に維持管理するための取組について	万が一、不適切な使用によって備品が破損した場合の報告、原因確認、修繕、費用負担などについて明確なルールがあるのか伺う。 また、備品の使用、収納、破損時の報告などについて管理状況を点検し、必要に応じて管理マニュアルやチェック体制を改善する考えはないか伺う。	

9月3日（木）

発言順番 8

野田 利典

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 令和 8 年熊本地震に伴う支援について	令和 8 年 7 月 28 日 16 時 27 分に発生したマグニチュード 7.1 の熊本地震により、八代市をはじめ近隣の自治体を含む熊本県内で多くの方が被災されました。小林市からも物的支援並びに人的支援がなされているところではありますが、このことについて伺います。	市長
（１）物資の支援について	八代市のホームページによる物資支援の要請に基づき、飲料水及び生活支援品の物資支援が行われました。配送の日時、ルート、交通渋滞、派遣場所の物資受入態勢の状況について伺います。また、今後、被災した自治体への追加物資支援の予定があるか否かについて伺います。	
（２）人員派遣について	人員派遣先の自治体と活動状況、派遣職員の熱中症対策について伺います。	
（３）市からの災害ボランティア派遣について	被災地の被害は甚大と報道がなされています。被災者は、瓦礫の撤去や家財道具の搬出・搬入など苦勞されており、先般、宮崎県災害中間支援ネットワークから災害ボランティアの派遣がありました。熱中症対策や自己完結の必要性もあるが、市として災害ボランティア派遣の考えについて伺います。	
（４）被災者の避難受入れについて	被災者の受入れを行うとえびの市が発表されました。本市での被災者受入れの考えについて伺います。	
質問事項 2 移住・定住について	市の移住・定住政策の現状と効果・課題について伺います。	市長 教育長
（１）ホームページの更新状況について	市ホームページ移住・定住サイトをみると人口の数値が過去のままになっています。同様に、案内用パンフレットの更新は随時見直しがされているのか伺います。	
（２）移住支援について	移住支援金及びひなた暮らし移住支援金の実績や課題について伺います。 また、移住希望者から学校施設見学の問合せが	

9月3日（木）

発言順番 8

野田 利典

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	あるか伺います。	
（３）奨学金返還補助について	利用状況と課題について伺います。	
（４）空き家バンク制度について	空き家バンク登録状況、不動産会社との連携はどのように行われているのか伺います。	
（５）人材確保支援策について	以下の事業について、移住者の活用状況を伺います。 ア 担い手育成支援事業の利用実績を含めた状況について イ 高齢者ケア人材確保資格取得支援事業の実績と状況について ウ 医療人材確保推進事業費補助金の利用実績と現状について	
質問事項３ 三之宮峡の管理整備状況について	前回、質問した三之宮峡の道路やトイレ清掃について、状況に応じて回数を増やすなど対応していくとの答弁であったが、夏休みやお盆期間の管理状況について伺います。	市長

9月4日（金）

発言順番 9

竹内 龍一郎

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 市における生成 A I の活用と課題について	人口減少に伴う働き手不足が懸念される中、業務効率化や市民サービスの向上を図るため生成 A I の活用が注目されています。 先進自治体の東京都では、昨年 7 月に職員が業務で A I を安全に活用するためのガイドラインを定めています。県内においても、日向市や都城市では生成 A I が導入されているようです。 そこで、当市における現在の取組状況や期待される効果と課題、セキュリティ対策、今後の計画について伺います。さらに学校現場での生成 A I の活用について基本的な考え方を伺います。	市長 教育長
（１）本市の活用・試行状況について	本市における生成 A I の活用状況や試行状況について伺います。具体的にどのような業務（文書作成、要約等）での効果が想定されるのか伺います。	
（２）ガイドラインとセキュリティ対策について	機密情報や個人情報の漏洩を防ぐためのガイドラインの策定と職員へのセキュリティ教育などの取組状況を伺います。	
（３）今後の導入計画と期待される効果について	今後の導入計画の考えについて伺います。また、生成 A I の活用の効果として業務時間短縮の試算や具体的にどのような事務の効率化や市民サービス向上が進むと見込まれるのか伺います。	
（４）学校現場での生成 A I の活用について	生成 A I は急速に普及し、学校現場において学習支援ソフト等にも組み込まれ活用が広がりつつあります。生成 A I の活用について基本的な考え方を伺います。 教育現場での個人情報の取扱いに関するセキュリティ対策や今後の活用方針について伺います。	

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 2 学校施設・公園施設の危険樹木（老木・巨木）の管理と安全対策について	近年、学校施設や都市公園において、倒木によるけがや死亡事故、器物破損のトラブルが相次いでいます。勢力の強い台風や豪雨の増加は、老木や巨木の倒壊リスクをさらに高めています。子供たちや市民が日常的に利用する公共施設において樹木の安全管理、実態把握、伐採・植栽計画、樹木医の調査実績など基本的な安全対策を伺います。	市長 教育長
（１）学校・教育施設内での安全対策について	学校・教育施設内での倒木に係る安全対策について伺います。また、過去に倒木や落枝による事故やヒヤリハット報告の事例がないか。本市以外の倒木事故などの情報は把握されているか伺います。 学校敷地内において危険樹木（老木や巨木）の点検頻度や安全とする判定基準を伺います。また、学校や地域住民から危険樹木の落枝・落葉による伐採要望や伐採予定で未実施がないか伺います。 過去に倒木による損害賠償の事案はなかったか伺います。また、学校敷地内や教育施設内の危険樹木の樹木医による調査実績を伺います。	
（２）市の公園や公共施設の安全対策について	公園・公共施設は市民や子供たちが安心して遊んだり、憩いの場として整備されているところです。市として危険樹木の安全対策について基本的な考え方を伺います。公園や公共施設等で危険樹木はどれくらい把握されているか。危険樹木の総数、近年の伐採・剪定の実施件数とその優先順位の決め方を伺います。 危険樹木の巡回点検の頻度と樹木医による過去２年間の調査実績とその結果を伺います。また、過去に立木倒壊による損害賠償の事案はなかったか伺います。	

9月4日（金）

発言順番 9

竹内 龍一郎

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
（３）地域との連携並びに今後の管理計画、事前点検、伐採予算の確保について	学校や公園は、子供や高齢者が日常的に集まる場所であるため、一たび事故が起きると重傷・死亡事故につながるリスクがあります。そこで、地域住民や学校関係者から危険樹木の情報提供を受け付ける窓口の設置やその周知は十分になされているのか伺います。 倒木リスクを中長期的に減らすための樹木管理マニュアル策定の考えがないか伺います。 市内の学校や公園で倒木による死亡事故が発生した場合、他市の判例を見ても数千万円から億単位の損害賠償（公金支出）が発生しています。財政的リスクの観点からも予算を投じて事前点検・伐採を進めるべきと考えますが、市の見解を伺います。	

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 健幸のまちづくりについて	新たな局面を迎えた「健幸のまちづくり」を今後 10 年間の行政経営の中でどのような位置付けで進めていくのか問う。	市長
（１）人口減少・少子高齢化を踏まえた健幸のまちづくり	人口構造が変化する中、健幸のまちづくりを推進するにあたり本市が今後直面する最大の行政課題を問う。 令和 8 年現在の要支援・要介護認定者の人数、介護保険を適用する世帯数を問う。 消防団活動でも、認知症等による行方不明者の捜索に出動する機会が 10 年前より増えたと感じる。現状を問う。また、市職員には消防団員が多いが、行方不明者捜索時の業務に対する影響を問う。	
（２）健幸のまちづくりにおける情報到達と行動変容	健幸のまちづくりを推進する上で市民に対する情報発信は重要である。封書、回覧板、ホームページ、公式 L I N E、防災ラジオなどの役割・運用を問う。 また、市民へどの程度情報が届いているのか、把握・分析状況を問う。	
（３）各種健（検）診及び健康づくり事業の現状	特定健診受診率及びがん検診受診率について、令和 7 年度の状況や受診率が伸びていない要因の分析を問う。また、国保一人当たり医療費が県平均より高い要因を問う。 現在の健康施策の評価、健診受診率と医療費抑制について問う。	
（４）健康づくりに関する指標と事業成果の分析について	健幸ポイント事業参加者数、健幸アンバサダー養成人数、健幸づくり推進企業認定数、ゲートキーパー養成講座受講者数について、令和 7 年度の実績を問う。また、メタボリックシンドローム該当者割合と運動習慣者割合についても、令和 7 年度の実績を問い、過去 3 年間改善が見られない要因の分析を問う。 事業への参加者数は目標を達成しているにも	

9月4日（金）

発言順番 10

小川 真

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	かかわらず、メタボリックシンドロームや運動習慣といった健康指標は目標を下回っている。この結果をどのように分析しているのか。 また、市民の健康づくりに関する指標は今後も事業参加者数で考えるのか、市民全体の健康状態をどのように改善していくのか問う。	
（５）健幸ポイント事業の効果検証について	令和６年度に実施した「歩くことの習慣化に向けた実践及び事業の効果分析」では、健幸ポイント事業参加者は年間医療費が低いという結果であったが、参加者の歩数別や継続年数別など、今後詳細な分析を行うか問う。 また、健幸ポイント事業の参加人数が増えれば、健康状況の改善につながるという認識なのか問う。 非参加者を参加させるための仕組み、健康無関心層へ参加してもらう具体策を問う。	
（６）健幸のまちづくりの最終目標について	「健幸こばやし 21」が目指す成果を踏まえ、市長は健幸のまちづくりの最終目標と、フレイル予防、認知症予防、難聴などへの対策を今後どのように位置付けて推進していくのか問う。	